



GIGA スクール通信 vol.17



令和3年度から、GIGAスクールによる一人一台端末を本格的に活用した教育が始まった垂水市。ここでは、市民の皆様へ、GIGAスクールはどういったものなのか解説するとともに、各校の取組を紹介することで、GIGAスクール構想を基にした教育に親しみを持っていただければと思います。

垂水中央中学校が研究・実践を公開！

垂水中央中学校は、鹿児島県教育委員会「学校における教育の情報化」の研究指定を受け、令和4年度から研究・実践に取り組んできました。7月7日（金）には、県下の小・中・高等学校の先生方や教育関係者約100人が参加しての研究公開が行われました。

垂水中央中学校では、授業や業務において様々なクラウドアプリを活用しています。研究発表では、授業を中心とし、業務改善や生徒会活動などの具体的な活用事例を紹介しました。公開授業では、主に意見や考えを交流・共有したり、振り返ったりする場面で、ICT機器を活用していました。

参加された先生方からは、「ICT機器を活用することで、生徒全員の意見が出され、交流も活発で主体的な学習ができていました。また、学習のまとめにも効果的に活用されていました」や「リアルタイムで生徒の意見が見られ、教師は、採用されなかった意見も埋もれることなく確認できるよさがあると思います」などの意見がありました。

垂水中央中学校は、垂水小学校とともに文部科学省の「リーディングDXスクール事業」の指定校として、今後も、GIGAスクールの効果的な取り組みを広げていくことが期待されています。



▲研究会の様子

反転学習で「主体的な学びにつなげる GIGA スクール」の活性化を

水之上小学校では、今年度から『主体的な学びにつなげる算数科の学習指導の在り方』を研究テーマに掲げ、反転学習を取り入れた授業を試験的に実施しています。反転学習は、授業の内容を予習して授業に臨むので、授業が疑問点の解決の場になり理解がより深まるというメリットがあります。4年生算数「図形」の学習を例に挙げます。

- ① 家庭で四角形(台形や平行四辺形)の性質を調べて仲間分けをする。その際、タブレット端末を使って図形をうまく貼り付けたり、分かりやすく分類したりしておくなど、子供たちのタブレット端末の活用の仕方に工夫改善が見られる等の効果も出てきている。
- ② 授業では、図形の性質を確認しながら、仲間分けした理由を説明し合うなど、課題解決から始めるので、効率的に授業が進められ「考える・話し合う」場や時間を十分確保でき、問題解決能力を育むことができる。

子供たちからは、「予習をしたら、算数や他の授業も楽になって計画的に進められた」といった感想がありました。反転学習などの研修を深め、子供たちがタブレット端末を活用しながら、主体的に学習を進めている様子を授業参観や学校便り、ホームページ等で保護者や地域の皆様方に発信していきたいと思っています。



▲授業の様子



公益財団法人慈愛会と垂水市の包括連携協定のもと、今村総合病院の医師の皆様にご協力いただき、市民の皆様の健康増進及び子育て支援啓発を目的に、4か月に1回、皆様にお伝えしたい情報をコラム掲載いたします。

こどもの感染症と予防について

新 型コロナウイルス感染症の流行でこの3年間で家庭でもいろいろな感染対策がされたと思います。

感染の経路には、飛沫感染・空気感染・接触感染があります。例えばインフルエンザは咳やくしゃみなどの飛沫で感染しますので、まずは距離をとることが大事で1～2メートルの距離があると感染を防ぐことができます。インフルエンザ流行期に人混みを避けましょうというのはこのためです。

自分に症状があるときに周囲への飛沫を防ぐためにはマスクは有効です。医療機関で使用されるN95マスクでは周囲からの感染予防も可能ですが、マスクの種類によっては防御にあまり役立たない物もあります。また、いくら良いマスクをしていても、隙間があるとウイルスは入ってくるため鼻までしっかりおおい、隙間をなくすることが大事です。

空気感染で代表的な疾患は麻疹や水痘です。距離があっても同じ空間にいるだけで感染すると言われており、かなり感染力が強いウイルスです。麻疹は2015年に日本も排除状態となり(国内での自然発生はない状態)、輸入感染症(海外からの持ち込み)になりましたが、水痘はまだ発生の報告があります。

接触感染で代表的な疾患としては感染性胃腸炎があります。嘔吐などで汚染した物などを直接手で触ってしまい、口に入ることによって起こります。感染の予防には汚染部位の消毒と手洗いが大事になってきます。

感染してから発症するまでの潜伏期間は様々です。例えばインフルエンザは1～3日で

すが、水痘では2～3週間ありますので、接触があった場合は2～3週間後に注意する必要があります。

また、他の人にうつす期間(感染力がある期間)も様々です。そのため学校や保育園では疾患に応じて出席停止期間が決まっています。水痘は全ての発疹が痂皮化するまで、インフルエンザは学童であれば発症後5日間あるいは解熱後2日(幼児では3日)となっています。

そして、予防に有効な手段が予防接種です。ウイルス感染症は水痘やインフルエンザなど一部の疾患を除いて有効な薬がないものがほとんどです。

また、流行がなくなり罹患することが少なくなったため、予防接種で免疫をつけることが大事になります。多くの予防接種が定期化されたことで例えばインフルエンザ菌による髄膜炎はほとんど発生しなくなりました。またロタウイルスによる胃腸炎で重症の脱水症になる乳幼児も激減しました。

お子様へのプレゼントと思って予防接種もすすめていきましょう。

今村総合病院小児科医
溝田 美智代

小児内分泌が専門で低身長や肥満、糖尿病、甲状腺疾患等の診療を主に行っています。保護者の方と一緒に、お子様の健やかな成長のお手伝いができたらと思います。



保健課健康増進・元気プロジェクト係 ☎ 内線 138